

「安心・活力・発展プラン2005」推進委員会委員発言要旨 －福祉保健部会－

開催日：平成22年7月7日（水）14：00～16：00

場 所：トキハ会館 さくら

出席委員：村上部会長、小野委員、河村委員、後藤委員
田北委員、松田委員

テーマ1 長期総合計画「安心・活力・発展プラン2005」の評価と課題について

〔議事概要〕

(1) 計画期間の前半を振り返って

- ・ 県立病院に逆紹介率が高いのは良いことだが、病院の地域連携室に福祉の専門職員がいるともっと効果的ではないか。
- ・ ファミリーサポートセンターについて、目標値が達成されていないが、旧町村部などは、祖父母がその役割を担っており、必ずしも全市町村一律に設置されなくてもよいのではないか。
- ・ バリアフリー化された県営住宅の割合が増えて目標を達成したのはいいが、手すりの位置など、利用者のニーズに合っていないので、現場との調整が必要。熊本城の障がい者用トイレなどを参考に、どんな立場の人にも役に立つものが必要。
- ・ トイレのフック一つにしても、障がい者には重要なので細かな設計が必要。
- ・ 健康寿命が上がれば良いという訳でもない。要介護の人々の満足度も重要。

(2) 新たな政策・施策課題について

- ・ 社会・介護福祉士の登録者数は目標を達成しているが、資格を持った人をいかに活用すべきかが大切。
- ・ 福祉の分野は土日勤務など社会の歪みで働く人が多く、また大変な仕事なのに、低すぎる賃金が原因であるため、この問題の解決が不可欠。
- ・ 産科、小児科の医師不足は深刻。新たな課題と位置付けるべき。

(3) 今後の方向性について

- ・ ボランティアの登録者数の増よりもボランティアのニーズと結びつけるコーディネーターの養成が大切。また国体後はニーズを把握して目的に沿った募集や研修を行うことが必要。
- ・ 介護福祉士など登録者数を増やすのももちろん大事だが、資格を持った人をいかに活躍する場があるかが大切なので、そういう所に指標を設定すべきだ。
- ・ 大型リフト付きタクシーの整備について、整備台数は目標を達成しているが、地域のニーズに合っていない地域もある。台数の確保だけでなく、広域での運用などの事業があるとよいのではないか。
- ・ 老人クラブの加入者数が減っているが、目的やニーズ、年齢等の分野に分けた小グループ化したクラブの連合体としてはどうか。

(指標について)

- ・ 目標値がこれでいいのかどうなのか全体的な見直しが必要と思われる。
- ・ 全国と比較した数値が多いが、大分県ならではの目標値が必要なのではないか。
- ・ 主に目標値が達成されているが、実感がない。数字では表しにくいものもあるので、満足度など測定ができるとよい。